

# 創立 88 年 広島国際学院 報

建学の精神  
教育は愛なり

第 99 号  
平成 28 年 1 月 1 日発行

巻末  
特集

高校野球部

県大会初優勝



力強い投球を披露する中澤梓選手（総合学科 2 年、戸坂中学校出身）

## 目次

特集 広島国際学院高校 新校舎改築	1
元客員教授・川島なお美先生ご逝去	2
安芸太田町・井仁地区との協力交流・協力活動	2
イタリアから本大学へ客員研究員来日	2
実践、体験…モノづくりの粋を学ぶ 工学部	3
芸術と交流で社会とつながる 情報文化学部	4
スポーツと地域社会を通し培う人間力 総合教育センター	5
安全走行を支える広い知見 短期大学部	6
高校から発信	7・8
第 48 回高城祭	9
第 1 回国学大運動会	9
高校ゴルフ部全国制覇祝勝会	10
短大 OB、トヨタ技術大会で準優勝	10
特集 高校野球部、県大会で初優勝	11
今後の主な行事予定	11

高校から発信

短期大学部

安全走行を支える広い知見

総合教育センター

スポーツと地域社会を通し培う人間力

情報文化学部

芸術と交流で社会とつながる

工学部

実践、体験…モノづくりの粋を学ぶ

特集

広島国際学院高校 新校舎改築



高校新校舎イメージ図（北側から）

高等学校は本年度創立 88 周年を迎えました。普通科 3 コース・総合学科 4 系の男女共学でおよそ 1,500 人の生徒数を誇る県内でも類を見ない規模の学校に成長しました。この多くの生徒たちが健全な教育環境のもと、人間力の向上と学力の強化を目指し、その実践の場である新たな校舎を建設することとなりました。

新校舎の場所は 3 号館奥の新校地（国道 2 号線沿い）を計画しており、そこに教室・特別教室・管理室などが集合する本館、新しい体育館、ホールの 3 棟を建築する予定です。すでに耐震補強・改修を終えた現在の体育館・1 号館東袖館はそのまま校舎として活用しますが、1 号館本館・西袖館、2 号館それと 3 号館は新校舎の建設にともない、順次解体いたします。

新しく計画している本館には今後の教育の変化に対応できるように普通教室と特別教室を計画していますが、その他にも事務室、職員室、図書室、食堂などさまざまな機能を集約しており、安心かつ充実した学校生活をおくることができる環境を整えます。

また本館にそれぞれ 2 階建ての体育館と 500 人収容のホールを併設します。体育館はグラウンドとの連携に配慮された配置を計画し、ホールは講演会や音楽鑑賞だけでなく、集会や一般開放など含め多くの文化的な活動の場として計画しています。

計画の詳細については今後もお伝えしていく予定にしていますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



高校新校舎イメージ図（南側から）



高校新校舎イメージ図（西側から）

**機能拡充した新校舎 体育館やホールも併設**  
**学力と人間力向上を目指す**

## 元客員教授・川島なお美先生ご逝去



在りし日の川島先生

9月24日、川島なお美・元現代社会学部客員教授が逝去されました。川島先生の着任は、学生たちに厳しいプロの世界での経験を伝えていただきたいという、当時の迫勝則学部長をはじめ関係の方々のご尽力により実現しました。2008-9年度の

社会学合同演習「プロの仕事論」や社会学公開演習「現代社会に見る恋愛」などを担当され、ご自身の芸能活動や社会でのご経験、人間観や恋愛観などを熱心に伝えていただきました。講演の中で、プロに必要なものは常に現場に出続けられる能力であると話されたのも印象的でした。ご逝去の直前までお仕事に打ち込まれたとお聞きします。まさに、プロとしての信念そのもののお姿と拝察します。謹んで川島先生のご冥福をお祈りします。

## —— 学科を超え、郷土の宝を応援 — 安芸太田町・井仁地区との交流・協力活動 —



黄金色に実った稲を刈り取る

本大学は平成24年度から広島県安芸太田町と地域連携活動に取り組んでいます。日本棚田百選にも選ばれた同町井仁地区の棚田の維持・保全活動もその一つです。

今年度は食農バイオ・リサイクル学科と現代社会学部の学生や教員が稲作を体験しました。田植えをした5月3日は午後から小雨が降り、雨合羽を着ての作業になりました。雨の中、皆で一列になり丁寧に植えて

いきました。9月26日には稲刈りを行いました。当日は天気も良く、絶好の収穫日和でした。棚田全面によく実った稲穂を自動稲刈り機、あるいは鎌を手に刈り取ってから結わえました。刈り取りの作業は非常に手がかかり、自動稲刈り機の便利さを改めて実感しました。刈り取った稲は天日干しにしました。機械での乾燥より風味が良い米になるそうです。さらに10月24日は現代社会学部の学生たちが稲の脱穀やもみすり、水路や展望台等の清掃などを行いました。

また情報デザイン学科の学生は新米のパッケージデザインを行いました。産直市では4年の寺曾真希さん(日彰館高校出身)デザインの米袋を販売しています。学科それぞれの特色を生かした地域協力が続いています。



米袋のデザインを発表する寺曾さん

## イタリアから本大学へ客員研究員来日

7月、イタリアからマウロ・アリギ(Mauro ARRIGHI)さんが本大学の客員研究員として来日されました。アリギさんはイタリアのポローニャ美術アカデミーのデジタル・アートおよび電子音楽科の講師として務めながら、イギリスのサウサンプトン・ソレント大学で博士号を取得中です。本大学では情報デザイン学科の学生に向け「Creativity in the post-digital scenario and the influence of Post Humanism / TransHumanism in Art & Design」というテーマで講義をしてくださいました。絵画や日本のアニメ、映画を事例にあげながら、西洋と日本では「見る」ことの意味が違うことや、SF小説・サイエンスフィクションに基づくプロダク

トデザインとソーシャルメディアについて、さらに博士論文で使用するオリジナル映画のシナリオに至るまでアリギさんの幅広い研究内容が紹介されました。



マルチビジョン室での講演の様子



導入したKEYENCE社の高精度3Dプリンター

コンピュータ技術の発達に伴い、工作機械は、旧来の旋盤からCAM（コンピュータ補助製作）に進化し、今ではさらに3Dプリンターの時代に突入。3Dプリンターは3D-CADで作成したデータを基に、積層という極めて薄い「印刷物」を一層ずつ吹き付けてゆくことにより、中空構造を含む複雑な構造物も手軽に作成可能な装置です。

3Dプリンターで最先端モノづくり技術の教育を開始

生産工学科では、この最先端のものづくり技術の教育を実施するために、高精細な3Dプリンター（AGILISTA-3110）を9月に導入しました。右はこの3Dプリンターで製作したスターリングエンジンの模型です。



3Dプリンターで製作したスターリングエンジンのアクリル樹脂模型



佐伯君と鹿をモチーフにしたレモン絞り器

HANDS Fab 大賞 1次審査通過！—在学生在技術と創作へ挑戦—

東急ハンズ広島店が主催するものづくりコンテスト「HANDS Fab 大賞」で、生産工学科3年生の岡本亮平君（広島国際学院高校出身）と佐伯駿介君（安芸南高校出身）

の応募作品が一次審査を通過し、店舗に展示されました。応募作品は、それぞれ3D-CAD（SolidWorks）で設計し、3Dプリンターで製作したものでした。



岡本君と紅葉形のオニギリ型

トムミルクファームで酪農体験授業

7月23日に、食農バイオ・リサイクル学科の1年生が学外での体験授業で約一時間バスに揺られて東広島の豊栄町にあるトムミルクファームに行ってきました。えさを食べている時に牛の首を固定する装置を見学し、めったにできない搾乳体験もしました。思ったよりも勢いよく出ました。

牛乳の入った容器を振ってのバター作りは意外と簡単できておいしかったです。牛乳を冷やしながら混ぜていると少しずつアイスクリームになってきました。でき上がったアイスクリームはみんなでおしくいただきました。家でもぜひ作りたと思うほど甘くておいしく、しかも無添加、新鮮でヘルシーです。

牛の堆肥を使った有機農法で見事に育ったキャベツ畑の前で、



牛の搾乳を体験する学生たち

現在進んでいるTPP交渉が成立しても「生き残れる酪農」についてお話を聞きました。生産（一次）・加工（二次）・流通（三次）を一手に行う「農業六次（＝一次＋二次＋三次）産業化」が農家を救うことができるかが大きな課題になっていることがわかりました。

PICK UP!

今回訪れた讃岐平野では、独特の地形と風土によってお酒に適した水質の地下水を育み、古来の伝統文化によって醸造技術が伝承されたことを知りました。地域の気候や地形を巧みに利用し、知恵と工夫で独特の食文化が生まれ、現在も守られていることを知る貴重な旅でした。

今回お邪魔したのは清酒金陵の多度津工場と川鶴酒造。ともに、醸造主任による日本酒造りの基本原理と味の違いの説明の後、工場見学をさせていただきました。長年醸造に携わる方々から何うお酒造りと水、そして水環境の大切さについてのお話に、学生たちはメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。さらに、研修の一つとして金刀比羅宮へ参拝と地元のおどんでも味わい、香川の歴史と食文化にも触れました。



川鶴酒造の川人洋造さんからお話を伺う

夏休みも終盤の9月中旬、食農バイオ・リサイクル学科の竹野研究室では、卒業研究の一環として、日本酒の醸造用地下水の水質調査と地域の食文化に触れるため、香川県に出

お酒と食文化に触れる旅  
研修旅行・香川

## 情報文化学部

### 第11回“ちいさな”平和コンテストを開催

“ちいさな”平和コンテストは、平和を身近に感じた瞬間が撮影された写真を通じて、平和について考えていただければという目的から始まりました。2015年は被爆70周年ということで、高校生以下部門と一般部門をあわせて160以上の作品の投稿がありました。投稿作品は8月1日から31日まで、広島駅地下広場の展示

スペースにて展示いたしました。入賞作品は、Webサイト (<http://heiwa.id.hkg.ac.jp/>) でご覧いただけます。



高校生以下情報デザイン賞  
「青空と原爆ドームと…」



アニメ作りを楽しむ子どもたち

8月23日、シャレオ地下中央広場の「シャレオ☆アニメーションアートBOX」に情報デザイン学科が参加しました。これは本年8月の第16回広島国際アニメーションフェスティバル1年前イベントです。会場では広島市の同

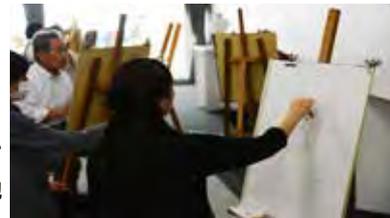
### シャレオ☆アニメーションアートBOX

フェスティバル関連展示や他大学等の展示と共に、趙研究室のVFX（映像特撮効果）、定國研究室のプロジェクションマッピング、岡川研究室のアニメーション教室も参加しました。各研究室の学生たちも約6千人の来場者に対応し、貴重な経験ができました。

### 芸術の秋にふれる。デッサン教室

10月24日にまちづくり市民交流プラザにて、第11回デッサン教室が開催されました。美術系大学への進学を希望している高校生から、リピーターの方、初心者の方など幅広い年齢層の方々24名がデッサンに取り組みました。基本的な描き方や画材の使い方のアドバイスを受け、集中して絵に向かいました。最初は沈黙に包まれてい

ましたが、絵ができていこううちに他の作品を見て絵について話したりして、活気のある雰囲気



デッサンに取り組む参加者

の教室になりました。

# 芸術と交流で社会とつながる

PICK UP!

海外研修を通して、異文化の人との交流の大切さや、異文化交流をするうえで重要なことを、各自が感じ取っていました。帰国後も台湾の学生と交流が続いています。この出会いを大切にしてください。



台南ではマンゴー狩りに挑戦

また、東呉大学で日本語を学んでいる学生と陽明山国家公園、北海岸国家風景区に一日出かけ学生交流を行いました。中国語で自己紹介をしたり、日本の盆踊りを披露しました。海外研修を通して、異文化の人との交流の大切さや、異文化交流をするうえで重要なことを、各自が感じ取っていました。帰国後も台湾の学生と交流が続いています。この出会いを大切にしてください。

台北郊外の平溪では、願い事を書いた天燈と呼ばれるものを空に飛ばす伝統的な風習を体験しました。学生は一人ひとり自分の願い事を天燈に書きました。この天燈は天高く飛ぶほど願が叶うと言われていますが、空高く飛んで行ってくれました。さらに台南では初めてのマンゴー狩りを体験しました。



台北市郊外の陽明山国家公園で、東呉大学の学生とフィールドワーク

現代社会学科の海外研修が、8月6日から12日の日程で台湾で行われました。この授業は台湾の歴史・社会・文化などについて事前学習をし、台湾で学生交流や異文化体験をする科目です。海外研修に参加した学生たちは、北京語や台湾語が飛び交う環境に初めは緊張した面持ちでしたが、徐々に慣れ充実した研修を送りました。研修中は台湾の食文化を理解するために、朝市を見学したり、台湾式朝食、台湾のお茶文化（茶艺）を体験しました。朝は朝市が行われ夜には夜市になる場所を見て、その変化に学生たちは驚いていました。

### 台湾で海外研修を実施

「生涯スポーツ A」



県民の浜で全員集合

8月27～29日、呉市蒲刈町の県民の浜周辺にて、生涯スポーツAの授業を行いました。

41名の履修学生は、海浜でのテント生活を行いました。昨今は林間学校などの学校行事も少なくなり、テント生活が初めての学生も多いようです。学生たちは、生活班で事前に食事の献立を考え、買い出しや

マリンスポーツは、シーカヤック、ウインドサーフィン、スクーバダイビングを体験しました。これらのスポーツは個人的に体験することはなかなか難



シーカヤックで大海原へ漕ぎ出す

しい種目で、授業として体得できることはとても有意義なことだと思います。これらの体験が、今後の学生生活をより豊か

マリンスポーツ&キャンプ実習

自炊調理を行う中で徐々に親睦を深めてゆき、会話も弾んでいたようです。



ウインドサーフィンを楽しむ学生

また、自然の中で生活する技術や知識も豊富になり、日に日にたくましくなってくれたように思います。

なものにし、人間的に強くたくましく、さらにはリーダーシップを醸成するきっかけになってくれることを期待しています。また、スポーツの趣味として生涯定着することになれば幸いです。



自炊生活の中で親睦を深めたキャンプ実習

PICK UP!

かつて宿場町だった海田町について、西国街道・海田市ガイドの会の皆さんを講師に迎えて『海田町の歴史と文化』という題名で、西国街道の当時の様子を現存する史跡の紹介とともにお話しいただきました。『瀬野川の自然』では、学生が瀬野川沿いの「ほことり広場」に集まり、保光義文氏から瀬野川にいる動植物について説明を受けました。保光氏が川

から取った虫や魚などを実際に見て、大学近くの自然を体感できたと思います。岡田公代氏には、『安芸区を知る』でボランティア活動、JR安芸中野駅近辺の商店街や蓮華寺山登山について話していただきました。

瀬野川流域郷土史懇談会による『瀬野の歴史と文化』と『JR山陽本線の歴史と役割』では、西国街道最大の難所と言われた「大山峠」やJR山陽本線最大の難所「瀬野八」の歴史を学び、貴重なビデオを観ることもできました。今でも瀬野と八本松間では、貨物列車は補機と呼ばれる機関車で後ろから押されていきます。機関車1両だけが広島駅方面に戻るのは、西条で切り離された補機です。



大学近くの川辺が教室になった『瀬野川の自然』



西国街道の宿場町、海田町について学ぶ『海田町の歴史と文化』

初年次セミナーII 「せのがわ学」

本大学は、広島駅からJR山陽本線で16分の中野東駅で降り、安芸山陽道と呼ばれる道を10分ほど歩いた場所に在ります。安芸山陽道は、江戸時代には参勤交代に使われた由緒ある街道で、京都から下関を結んでいました。1年生の必修科目「初年次セミナーII」では、大学の前を流れる瀬野川、JR山陽本線、そして安芸山陽道を知ってもらう「せのがわ学」を開講しております。

瀬野川流域郷土史懇談会による『瀬野の歴史と文化』と『JR山陽本線の歴史と役割』では、西国街道最大の難所と言われた「大山峠」やJR山陽本線最大の難所「瀬野八」の歴史を学び、貴重なビデオを観ることもできました。今でも瀬野と八本松間では、貨物列車は補機と呼ばれる機関車で後ろから押されていきます。機関車1両だけが広島駅方面に戻るのは、西条で切り離された補機です。

## 短期大学部

### 第3回ゼロハンカー大会

7月26日、上瀬野キャンパスで第3回広島自短EV & ゼロハンカー大会を開催しました。

この大会は、舗装路面上にパイロンを置き、決められたコースをいかに速いタイムで走るかを競うものです。そのためにはコーナーをいかにスムーズに走れるかがポイントで、ドライバーの技量は勿論ですが、参加者の皆さんは車両制作にそれぞれ工夫があります。それを見るだけでも楽しいですし、勉強になります。

競技は午前と午後の2回走り、どちらか早い方のタイムで勝敗が決まります。参加チームの中には、1回目の走行中にチェーンが外れてリタイヤとなったものの、

チーム一丸となって車両を直し、2回目の走行では無事完走してクラス優勝したところもありました。学生たちには本当によい思い出になったのではないのでしょうか。

この大会は来年も行う予定です。参加された皆様、本当にありがとうございました。またオフィシャルを務めた学生諸君もお疲れさまでした。



緊張のスタート

### 三菱自動車水島製作所を見学 — 研修旅行 —



三菱自動車水島製作所にて

9月1～2日に1泊2日の日程で研修旅行を行いました。

1日目の研修は、岡山県の三菱自動車工業(株)水島製作所を訪問し、プレス、組立ラインを見学しました。歴史ある工場で、各生産ラインには最新鋭のロボットが導入され、国内でもトップクラスの生産能力と高品質の車づくりに努めています。鋼板から自動車になるまでの工程がよくわかり、勉強になりました。

見学後、一路ユニバーサル・スタジオ・ジャパンへ向

かい、閉園まで過ごしました。ほとんどのアトラクションは長蛇の列でしたが、学生たちはそれぞれに楽しんでいる様子でした。

2日目は神戸海洋博物館・カワサキワールドを見学した後、お隣の神戸ハーバーランドumieで自由行動、中華街の散策、グルメとショッピングを満喫し、帰路に着きました。2日間で互いに交流を深め、学生時代の楽しい思い出の一つとなったことと思います。

同窓会からは毎回旅費の援助をいただき、感謝しています。今回は観光バスの運転手さんも同窓生で、たいへんお世話になりました。

PICK UP!

でした。

自動車整備士を志す1年生にとって、普段の講義や実習と実際の現場との関連性がより明確になった見学

でした。

一方検査場では、実車を検査ラインで走行させて排気ガス成分の測定、ブレーキ、ヘッドライト性能、ピットでの下回り検査など、道路を安全に走行するための諸検査の一連の流れについて田中茂検査課長に説明していただきました。

バイスをいただきました。

講義の中で、ご自分の学生時代にはまだ実施されていなかった1級自動車整備士の必要性について触れられ、ぜひ今の学生さんにチャレンジして欲しいことや、就職についても整備工場のみならず国土交通省やその関連法人への就活の幅を広げることなど、多くのアドバイスをいただきました。

説明されました。

男さんに「法律から見た整備士の役割」と題して講義いただきました。道路運送車両法に基づいた認定工場・指定工場等における整備士の役割や業務内容について説明されました。



車検ラインを見学

本短大の卒業生でもある中国運輸局陸運技術専門官、萩原正

9月11日、1年生73名が就職ゼミの授業の一環として自動車検査独立行政法人中国検査部に伺い、2班に分かれて講義と現場の車検ラインの見学を行いました。

### 整備のプロを目指して — 車検場見学 —

安全走行を支える広い知見

9月20～21日、オープンスクールを開催しました。今回も「いかに本高校の雰囲気を味わってもらえるか」をコンセプトの1つに掲げ、2日間で合計2,400名を超える来場者をイベントでお迎えしました。

本高校のオープンスクールは、受付、体育館での全体説明会における司会進行や学科説明、講座見学の誘導案内などすべて生徒が中心となって運営を行っています。両日300名以上の生徒が先頭に立ち、おもてなしすることで、本高校の雰囲気が中学生や保護者の方に伝わったことと思います。

中でも体育館で行われる「在校生による手作り全体説明会」は、生徒達の趣向を凝らし

た説明が中学生や保護者の方にも大好評で、アンケートでも「生徒の説明がおもしろかった」などたくさん感想をいただきました。本高校マスコットキャラクターが登場した時は、体育館に大きなよめきが起きましたが、その後も分かりやすく丁寧で面白い生徒達の説明が繰り返されました。

来年度、中学生のみなさんが本高校に入学し、私たちと共に楽しい高校生活を築いてくれることを期待しています。



工夫された解りやすい説明が参加者の好評を得たオープンスクール

## 第54回文化祭



工夫を凝らした多彩な展示も見どころだった

11月21～22日、第54回文化祭「Kokusai Festival～これが国際のやり方じゃ～」を開催しました。本高校らしい文化祭にしようという思いがタイトルに

込められています。ステージでは合唱祭、吹奏楽部など、いずれも練習を重ねた素晴らしい発表が行われました。

書道部によるパフォーマンスも迫力満点の出来栄え。初の挑戦となった国際コミュニケーションコース2・3年生による中国語、韓国語のスピーチは、まるで現地に來ているような流暢さでした。

展示の部も例年通り見ごたえあるものでした。2年生の「平和」をテーマにしたクラス展示は、戦後70年の節目にふさわしい作品で国際学院をアピールしました。また、今回初めて閉会式を行い、約1,000人の群舞で文化祭を締めくくりました。

### PICK UP!

## 修学旅行

すごい！北海道を満喫

総合学科2年3組 長尾 卓治（中広中学校出身）

10月15日から4泊5日の日程で、高校生活一度きりの修学旅行に行きました。僕は北海道を選んで旅行しました。北海道にはたくさんすごいことがありました。それはまず、とにかくでかいことです。新千歳空港からホテルまで6時間の移動時間がかかり、すごく大きいことを知りました。そしてご飯が美味しいことです。体調を悪くしてしまい、北海道の食材を楽しむことができませんでしたが、それでも味噌ラーメンは食べることができました。一番印象に残ったすごいことは、ルソツのホテルと函館山夜景観賞です。ホテルは家のように広くてすごく楽しかったです。

また夜景は青森県が見えるくらいとてもきれいでした。旅行中、一番楽しかったのはラフティングでした。人生初の体験でしたが、カヌーで急流を下るのはとても怖く楽しかったです。今後、300人近い人数で旅行するという体験はまずできないし、ほとんど自立した状態で旅行できたことはとても新鮮でした。僕はこの4泊5日は今後の人生の役に立つとすごく感じました。



函館山から眺める素晴らしい夜景

## スロバキアから留学生が来ています



ろうそく作りに挑戦するエマさん

この9月より本高校にスロバキアからミキリソバ・エマさんが留学しています。普通科2年5組に所属し、今年の6月末まで滞在します。今、週2回の日本語指導を受け、日本語の習得に励んでいます。茶道部に入部し、お点前ができるよう、お稽古をしています。10月には、修学旅行で北海道に行きました。スロバキアでは、多くの生徒と共に旅行をするということがないので、驚きと初体験のことがばかりで、とても楽しかったということです。中でもラフティングが一番の思い出だと言っていました。校内で見かけたら、英語が日本語でゆっくり話しかけてあげてください。

## オーストラリアから高校生が来ました



オーストラリアの生徒にも揚げもみじが好評

9月28日、オーストラリアのニューサウスウェールズ州ジュニータウンの June High School から高校生9名が本高校を訪問しました。普通科1年7組

では互いに自己紹介し、折り紙を教えるなどして交流を楽しみました。また、総合学科1年4組とは宮島に関するクイズを行い、一緒に揚げもみじを作り、おいしくいただきました。その後、国際交流委員の希望者を集めた交流授業では、英語でフルーツバスケットをしました。放課後はクラブ活動を見学しました。みなさん、ありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。

国際交流部より

## 吹奏楽部、全国出場決定！ - 今夏広島大会 -



4年ぶりで総合文化祭に出場する吹奏楽部

11月7～8日に第39回広島県高等学校総合文化祭が開催されました。審査の結果、本高校吹奏楽部は修道高等学校とともに今年8月2～3日に広島で開催される第40回全国高等学校総合文化祭（2016ひろしま総文）に4年ぶりの出場が決まりました。今後ともご支援よろしく願っています。

## 私学フェスタ

10月12日、広島国際会議場にて私学フェスタが開催されました。広島県内の私立中学・高等学校が一堂に会して行われる大規模な進路説明会で、今回は小中学生や保護者など総計6,000名以上が来場されました。

本高校教職員からの説明を聞く「話そうコーナー」、在校生によるプレゼン「聞こうコーナー」、学校資料や制服展示の「知ろうコーナー」、本高校吹奏楽部も参加した「観ようステージ」など内容盛りだくさんです。「聞

こうコーナー」では総合学科3年2組の土手美紗子さん（矢野中学校出身）による学校説明が2回行われ、中学生の興味を引いていました。



「聞こうコーナー」で学校説明をする土手さん

く、問題を解いてもらうことにより、学習面の刺激を受けてもらう、オープンスクールに次ぐ大イベントです。今年も10月11日に実施し、1000名近い中学生に受験いただきました。中学生にとっては、全く知らない生徒と同じ空間（教室）で、初対面の試験監督（本高校教員）のもと試験を受けることは貴重な体験です。

答案用紙、成績は1週間後に返却しました。今後の受験勉強に活かしてもらえたら幸いです。

## 国際模試



本高校オリジナル問題に挑戦する中学生

レポート

本高校は9年前から、多くの中学生が秋休みとなる10月中旬の連休中に「国際模試」を行っています。本高校オリジナルの

## 第48回高城祭「REGARD」——無限の絆——を終えて——

第48回高城祭実行委員会 委員長 山口 尚也（情報デザイン学科2年 五日市高校出身）



豪華景品引き当てに会場が沸いたビンゴ大会

10月17～18日に広島国際学院大学中野キャンパスにて、第48回高城祭を開催しました。

当夜祭では鼓天童子様による和太鼓演奏から始まり、カラオケ大会、高城フレンドパークなどを行いました。カラオケ大会では本大学学生だけでなく、他大学や教員の参加もあり、大いに盛り上がりました。高城フレンドパークではサークル員、教員、卒業生、一般参加者たちがチームを組み、1位を狙って奮闘しました。また、当夜祭恒例企画であるビンゴ大会では、まだ生まれて間もないであろうお子さんとそのお母様がデジカメを当て、これから沢山のお子さんの写真を撮ってほしいと会場全体が思いました。そのほかにもさまざまな豪華景品があり、多くの方々にご満足いただけたと思います。

2日目の終夜祭では、体育局によるアカペラがスタートの合図となり、協力団体による様々な企画を行いました。目玉企画であるゲストアーティストライブは、なんと2組もお招きすることができました。トリセツ男版として話題の「HIROSHIMA FUSION UNITE」と若者に大人気の「LAMP IN TERREN」をお招きし、多くのお客様にご来場いただきました。最後は高城祭の名物ともいえる打ち上げ花火。今回も来場者や参加者の笑顔で、実行委員会含め学友会役員一同が達成感を感じました。

過去6年間、天候に恵まれなかった高城祭ですが、今回は2日間とも快晴で、大変気持ちの良い高城祭を行うことができました。地域の皆様や本大学の教職員の方々、学生の皆様、系列高校の皆様、お世話になりました関係企業の皆様、そして高城祭に参加、来場して下さった皆様、本当にありがとうございました。皆様がいて下さったからこそ、この高城祭は大成功に終わりました。本当に感謝しております。次回は、今回以上に盛り上がる高城祭にしてみせしますので、ご迷惑をおかけするとは思いますがよろしくお願いいたします。



久々に好天に恵まれた高城祭、屋外イベントもにぎわった

## 第1回 国学大運動会

学友会体育局 局長 糸原 和治（情報デザイン学科3年 広島国際学院高校出身）

体育局は各種スポーツを通じて学生の体育運動を推進し、体力向上を目的として日々いろいろな活動をしています。9月5日、初の試みとして第1回国学大運動会を実施しました。

本大学には体育祭というものがなく、スポーツを通じて親睦を深めるためにと大学に提案し、学友会体育局主催による実施が決定しました。もちろん、前例がありませんので一からの作業です。いろいろなアイデアが浮かんでくる楽しさもあれば本当にこの企画で楽しんでいただけたのかという不安もありました。

競技内容は、椅子取り合戦、的当て対決、四方綱引き、大縄跳び、障害物競走、借物競争、宅急便リレー、台風の目、リレーを実施しました。参加者は一丸となり勝利のために全力を尽くしていました。中でも四方綱引きは、十字になった綱を4チームが一斉に引っ張り勝敗を決する他では味わえない競技でした。

当日は他大学からもご参加いただき、100名以上が集まる文字通りの大運動会となりました。参加者の皆さん、ありがとうございました。体育局では第2回大会も計画しています。皆様のご参加を局員一同心よりお待ちしております。



他大学からの参加者も集い盛り上がった国学大運動会



